

### 3.6 掘削現場東側での南北断面把握のためのボーリング調査

砂利採取やいけす設置などの過去の土地改変履歴を把握するため、掘削テントの東側近傍において地層断面の把握のために南北方向に1m間隔(一部0.5m)、深さ10m(一部12m)のコアボーリング21本を実施した。結果の概要は、下記に示すとおりである。

- 1) 厚さ約1mの表土層(以下埋土1)の下方に約深さ4m付近までコンクリート小片(ヒ素は検出されず)等の廃棄物を含む黒灰色の砂混じりシルトまたは砂質シルトの埋土層(以下埋土2)が存在し、さらにその下約深さ8m付近まで木片・植物片を含む暗褐灰色のシルト質砂が主体の埋土層(以下埋土3)が広がっている。
- 2) 南北方向には埋土2は、北側は境界より約3.5m離れた地点より始まるが、南側は敷地境界の際まで迫っている。掘削エリアのコンクリート様塊の南側分布範囲とほぼ一致しており、地歴情報の生け簀の跡に埋め立てられたものと考えられる。
- 3) 埋土3は、地歴情報から砂利採取後に埋められたものと考えられる。

また、空中写真と地形図(都市計画図)を比較して、用地境界と生け簀の位置関係を確認した。使用した空中写真は、平成4年10月および平成15年1月である。この結果、掘削現場箇所において平成15年1月では用地境界と水田の敷地がほぼ一致しているのに対し、平成4年10月では生け簀の位置が用地境界よりも若干南側であったと推定される。

掘削現場東側での南北断面把握のためのボーリング調査  
 ボーリングの位置および写真を以下に示す。

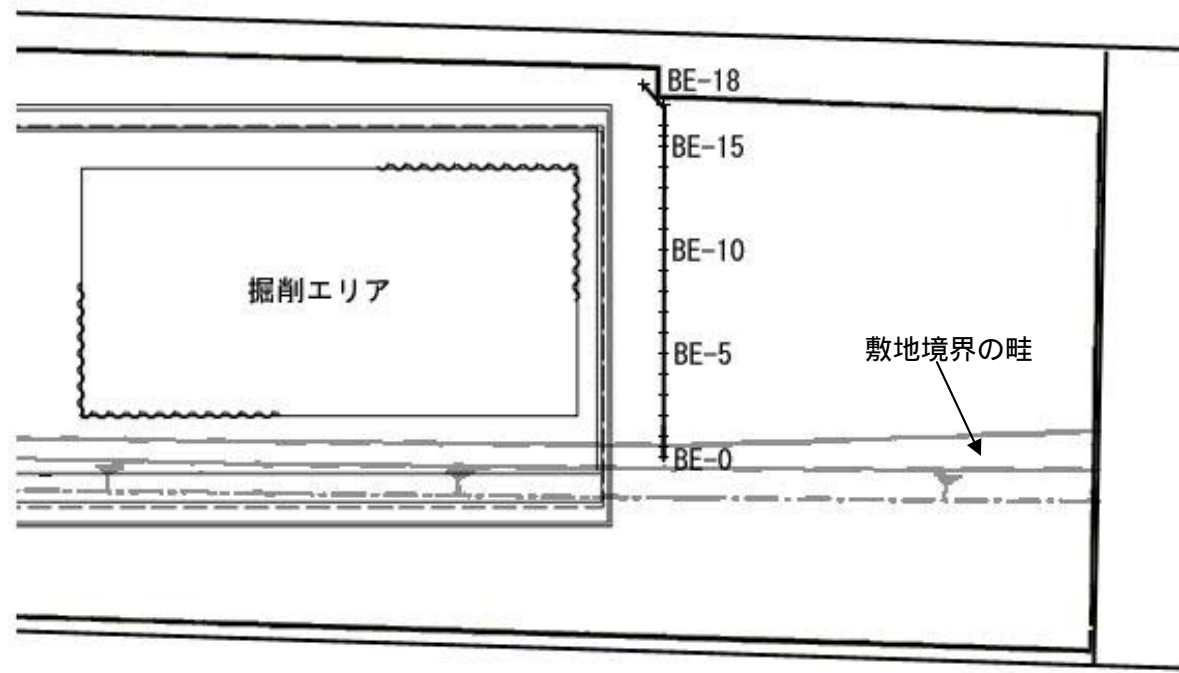


図 3.6.1 ボーリング位置図

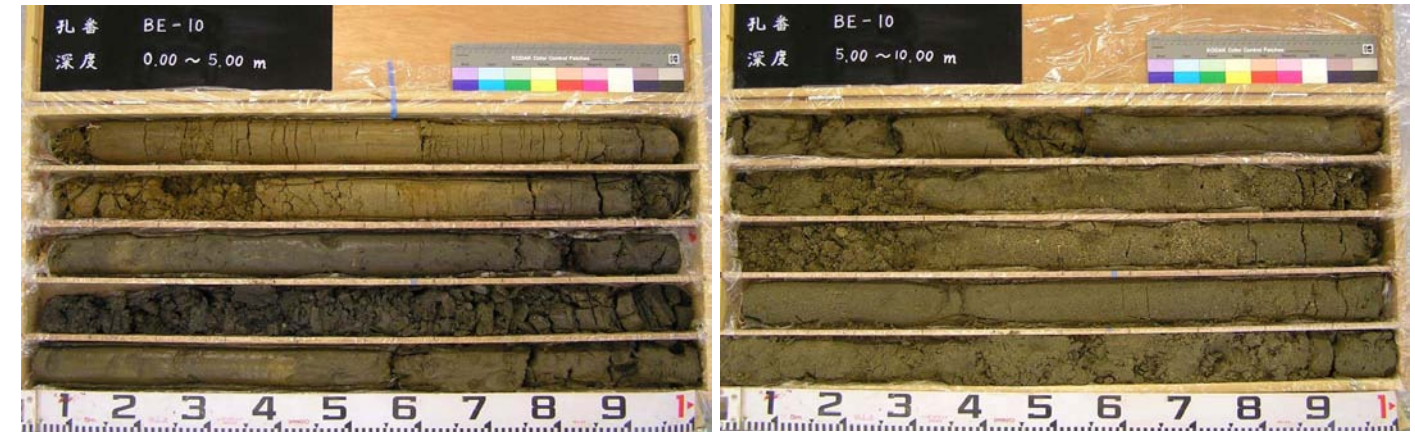


南北方向を南側より見る



東西方向を西側側より見る

ボーリング結果の全概要を次頁に、各ボーリングコアの柱状図を次頁以降に、代表的なコア写真を下記に示す。



BE-1 1.5m



BE-3 5.2m



BE-1 9.2m



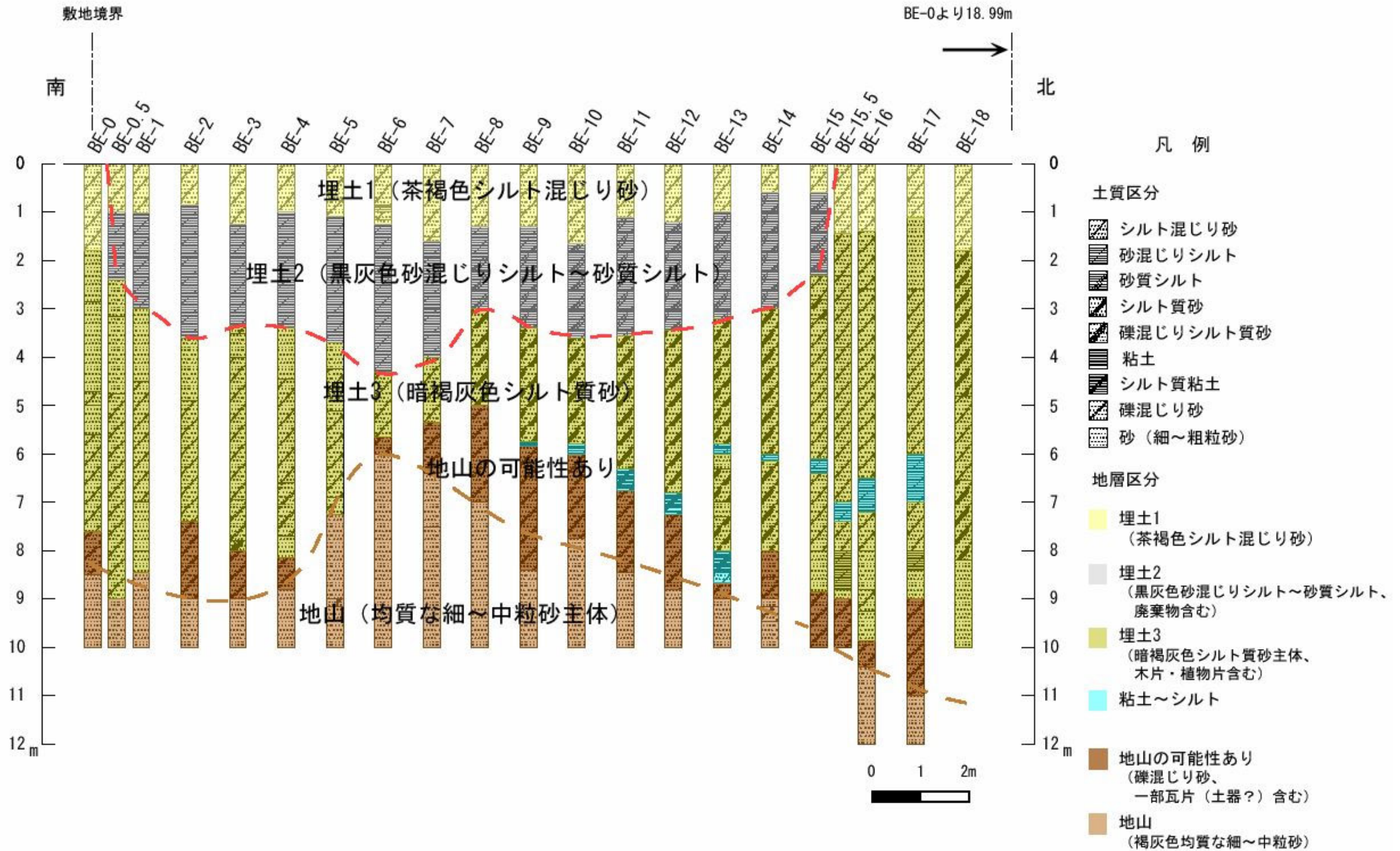


図 3.6.2 ボーリング断面図



図3.6.3 掘削調査地点付近の用地境界

平成4年10月26日撮影（国土地理院空中写真）



平成15年1月1日撮影

